

訪れたいまち

かとうぐんかみしほろちよう
北海道河東郡上士幌町

北海道河東郡
上士幌町

⑥タウシュベツ川橋梁

「めがね橋」の愛称で親しまれている。糠平湖（ぬかびらこ）の中に立ち、雪解けの水が流れ込む6月頃から、少しずつ水の中に姿を消していく。建設から70年以上が経過し、近年急激に劣化が進んでいる。

観光資源をよみがえらせ、ゆったり過ごす場を提供する。

人呼び、交流し、また訪れる。

住民と町が手を取り合って誰かの第二の故郷を目指す。

「このまちが好きだからみんなで創ろう！元気まち上士幌」

観光資源に恵まれた町

北海道中央部に日本で一番広い国立公園「大雪山国立公園」がある。その東山麓に位置し、森林が約7割を占める豊かな自然を誇るのが上士幌町である。

一ペソツ山をはじめとする山々、温泉、スキー場、ゴルフ場、牧場などさまざまな観光資源に恵まれている。特に観光客に人気があるのは、タウシュベツ川橋梁をはじめとした旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群だ。コンクリート造りのアーチ橋が古代ローマ時代の水道橋を彷彿とさせる。

「ひがし大雪アーチ橋友の会」

旧国鉄士幌線の線路は昭和初期から中期にかけて造られた。昭和62年の廃線以来放置されていたが、平成9年、ついに解体の危機に。そこで保存に乗り出したのが上士幌町民を中心とした現在のNPO法人「ひがし大雪アーチ橋友の会」（以

下、「友の会」である。友の会はアーチ橋の素晴らしさを理解してもらうために現地見学会や保存を要望する署名運動など、地道な活動を行い、34のアーチ橋梁群と線路跡の保存を実現させた。現在は「上士幌町鉄道資料館」の運営も行う。アーチ橋梁群をこよなく愛する友の会。会報誌「めがね橋だより」の発行や、旧士幌線スケッチコンテスト、アーチ橋遠足などイベントを通してアーチ橋の魅力を発信し続けている。

会員の募集を随時行っていて、会員同士で、活用についてのアイデアを出したり、保存に関する調査を行ったりと精力的に活動している。平成24年度には「手づくり郷土賞（一般部門）」を受賞。アーチ橋梁群を活用したまちづくりが高く評価された。今、特に力を入れているのが「第三音更川橋梁の保全」と「鉄路再生事業」。

第三音更川橋梁は桜、紅葉の名所「泉翠峡」という景勝地に架かり、周囲の景観と調和して静かなたたずまいを見

住してもらおうには、住む場所を安定的に提供するほか、滞在中の生活や観光に関する情報、相談窓口が必要だということが分かった。

今では、上士幌コンシェルジュが、移住相談から町の観光案内、特産品の展示販売などの情報発信を一手に行う「かみしほろ情報館」の運営を行う。窓口を一本化することで、相談しやすく、必要なサービスをスムーズに提供できるようになった。

「コンシェルジュは、移住者が孤立しないよう心配りも忘れない。仲間同士の集まりやイベントへの参加を呼び掛けるなど、交流を欠かさない。また、移住に先立ち、実際に町での生活をモデルハウスで体験してもらう「ちよつと暮らし生活体験モニター」の受入れを行っているが、このモニターの体験者も近況報告にコンシェルジュを訪れたり、と交流は続いている。平成25年度のモニター応募数も順調に伸びていて、6月時点で27組56名の予約に、町としては手心えを感じている。

担当の川村昌代さんご自身は上士幌町出身。20年近く町を離れたことで、上士幌を客観的に見る事ができたと話す。「外に出て町の良い面もそうでない面も分かりました。町の人たちが住みやすく笑顔なら、訪れる人たちも良い町だと思う



上士幌コンシェルジュ川村さん(中央)と二地域居住をしている佐田さんご夫妻

「生活体験を通じて、上士幌町を気に入ってくれたらうれしいです」(川村さん)。佐田さんの奥様は近くで採れる山菜でのお料理が得意。

てくれると信じて、人と人がつながるお手伝いを楽しみながらしています。川村さんは町役場の職員や町民からも慕われる存在だ。

実際に大阪と二地域居住をしている佐田さんご夫妻は「上士幌町は人が温かく、とても住みやすい町です」と語る。

人の交流で町を元気に

上士幌町は「住民が主役のまちづくり」に力を入れてきた。住民がこの町に愛着を持つことで元気な町を創り出す。移住者自身にも住民の一人として、まちづくりに参画できる環境を整えつつある。

住民一人ひとりが行政と一緒に、自分たちの力で、10年20年先に「住んでよかった」と思える町にしていくのだ。

二地域居住とは

都市住民が農山漁村などの地方部にも同時に生活拠点を持つこと。国土交通省では、多様な人口形態に視点を置き、地方部への人の誘致・移動を推進することを目的に、総合的な情報提供体制の整備や普及活動を実施しています。



かみしほろ情報館
上士幌町の総合案内所。



生活体験モニター用の
モデルハウス1号棟
必要最低限の生活備品付き。



お知らせ
第40回北海道バルーンフェスティバル
平成25年は8月8日(木)～8月11日(日)の4日間開催。上士幌町 航空公園にて。

泊まる

ぬかびら源泉郷 大雪山国立公園と糠平湖に囲まれた静かで雄大な自然を感じられる温泉地。源泉掛け流しの温泉を楽しめると人気。冬はすぐ近くのスキー場へ!



中村屋 朝、地元上士幌町の「十勝しんむら牧場」の牛乳を部屋の前へ届けてくれる気配りがうれしい。



上士幌で採れた山菜、豆、じゃがいもなどを使った朝食。



若女将ご夫妻と犬のあずきちゃん。

上士幌町はフェイスブックやブログサイトを運営し、人々との交流に役立っている。

かみしほろん .com (ブログサイト)
<http://www.kamishihoron.com/>

上士幌町フェイスブック
<https://www.facebook.com/kamishihorotown>



MLIT レポート 北海道



全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介!

Reporter

北海道開発局
帯広開発建設部
土地改良情報対策官



成田 敏彦

北海道開発局では、北海道各地で取り組む住民主体の地域活動を支援し、農山漁村の発展に寄与することを目的に、平成13年から「わが村は美しく北海道」運動を推進しています。「景観」「地域特産物」「人の交流」を3つの大きな柱としています。

運動の一環として、平成14年から2年に1度、コンクールを実施しています。北海道内各地で「わが村」の魅力と活力を高めようとする地域住民(団体)の努力と行動に光を当て、全国に伝えるとともに、活動を支援し波及させていくことにより、地域の新たな発展を目指すものです。

この運動を通じて、北海道にあるたくさんの方の「いいもの」をできるだけ多くの人に伝えていきたいと思っています。

「わが村」の小さな取り組みが、北海道の豊かな未来を築きます!

本運動に関する情報や地域活性化に関する情報をメールマガジン、ウェブサイトブックでも配信しています。



「わが村は美しく北海道」運動ロゴマーク

●第6回(平成24年度)コンクール優秀賞受賞団体(順不同)



①「恵庭農畜産物直売所 かのな(花野菜)」運営協議会



②八雲町もち米消費拡大推進協議会



③米-1グランプリ in らんこし 実行委員会



④東鷹栖食品加工販売協議会



⑤有限会社 多田農園



⑥平取町農業協同組合 青年部



⑦ハーブナーージュ



⑧北海道更別農業高等学校 加工分会 A



⑨ところよめさんねっと わーく・さくらちゃん



⑩上斜里フラワーロード 推進協議会



⑪白滝じゃが 生産部会 加工班



⑫南留萌・麦で地域を チェンジする会



⑬モーモーみるく倶楽部



⑭とよかんべつ交流大学

検索

「わが村は美しく北海道」運動 http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_nogyo/wagamura/

facebook「「わが村は美しく北海道」みんなのページ」 <https://www.facebook.com/wagamura>